

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国内総生産（GDP）の速報値が個人消費の低迷等により前期比年率1.4%のマイナス成長となりました（平成27年10～12月期）。中国を始めとするアジア新興国等の景気の下振れにより、我が国の景気が下押しされる懸念もありますが、企業収益・個人雇用・所得環境等の改善が続いている緩やかな景気回復が期待されています。

当社グループは、広告業界及び印刷業界の両分野にまたがり、幅広く販売促進支援業を行っております。広告業界では、フリーペーパーや、屋内外POP、イベント用展示・映像を中心としたセールスプロモーション（販売促進）分野が、徐々に拡大をみせております。一方の印刷業界は、Webマーケティングの多様拡大化に伴い、紙媒体の新聞・折込・雑誌の印刷需要が縮小する状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループは北海道の魅力をPRすべく自社で制作・発行する「北海道応援マガジンJP01」が、日本タウン誌・フリーペーパー大賞にて全国276誌の中から大賞を受賞いたしました。これらの活動を通じ構築してきたネットワークと企画力を活かした地方自治体の地方創生推進支援事業に注力し、受注を伸ばしております。年賀状印刷事業におきましては、新たに宛名印刷サービスに関する製造環境の構築及び新商材の開発を行いました。また、年々受注が拡大している年賀状受注を効率的に生産できるよう受注システム等への設備投資を行い、生産能力強化に取り組んでまいりました。

その一方で、前期に取得した伊勢原第一工場へ業務を集約するため、伊勢原第二工場を閉鎖するのに関連し、一時的に経費が発生し製造原価の増加が利益を圧迫いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、11,413百万円（前年同四半期比428百万円増）となりました。また、営業利益は、594百万円（前年同四半期比67百万円減）、経常利益は613百万円（前年同四半期比67百万円減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、385百万円（前年同四半期比42百万円減）となりました。

なお、当社グループの利益は、第1四半期連結会計期間は年賀状印刷の資材・販売促進費等の先行支出により低下、第2四半期連結会計期間は年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末商戦の折込広告の大量受注により売上が拡大することにより増加、第3四半期連結会計期間・第4四半期連結会計期間は年賀状印刷事業は固定費のみが発生することにより、売上高に対する経費割合が高くなり利益が低下するという季節的変動があります。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

#### (商業印刷事業)

商業印刷事業におきましては、東京エリアでの既存顧客の受注に苦戦し、当事業の売上高は4,829百万円（前年同四半期比104百万円減）となりました。

利益につきましては、伊勢原第二工場の閉鎖に関連し一時的な損失の発生及び移転作業中の外注費増加等の影響により、営業損失は1百万円（前年同四半期の営業利益は142百万円）となりました。

#### (年賀状印刷事業)

年賀状印刷事業におきましては、大口顧客からの受注が堅調に推移したことで、名入れ年賀状が178万件（前年同四半期比13万件増）、パック年賀状が594万パック（前年同四半期比14万パック増）となり、当事業の売上高は6,291百万円（前年同四半期比537百万円増）となりました。

利益につきましては、売上高の増加に伴い営業利益は816百万円（前年同四半期比59百万円増）となりました。

#### (ふりっぱ一事業)

ふりっぱ一事業におきましては、恵庭市における地域振興イベント「えにわん産業祭」の企画・運営を行う等、行政関連の業務を増やし営業の幅を広げる一方で、新規顧客の広告営業が苦戦し、当事業の売上高は236百万円（前年同四半期比10百万円減）、営業損失は34百万円（前年同四半期の営業損失は31百万円）となりました。

#### (その他)

その他におきましては、北海道内の2店舗のプリントハウスにおいて、DPE、オンデマンドプリント等の商品・サービスの提供を行ってまいりました結果、売上高は57百万円（前年同四半期比5百万円増）、営業損失は7百万円（前年同四半期の営業損失は12百万円）となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は13,020百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,907百万円増加しました。これは主に現金及び預金が1,789百万円、年賀状印刷事業の売上等に係る受取手形及び売掛金が1,312百万円増加したこと、年賀状印刷事業のはがき仕入等に係る原材料及び貯蔵品が395百万円増加したこと等によるものであります。

負債合計は10,592百万円となり前連結会計年度末に比べ4,596百万円増加しました。これは主に年賀状印刷事業の仕入等に伴う支払手形及び買掛金が2,135百万円、社債が600百万円、短期借入金が532百万円、長期借入金が311百万円増加したこと等によるものであります。

純資産合計は2,428百万円となり前連結会計年度末に比べ311百万円増加しました。これは主に利益剰余金が355百万円増加したこと、その他有価証券評価差額金が41百万円減少したこと等によるものであります。

### (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は3,061百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,789百万円の増加となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は853百万円（前年同四半期は1,279百万円の収入）となりました。これは主に売上債権の増加が1,312百万円あったこと等により資金が減少したのに対して、仕入債務の増加が2,135百万円、税金等調整前四半期純利益が587百万円、減価償却費が276百万円あったこと等により資金が増加したことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は447百万円（前年同四半期は894百万円の支出）となりました。これは主に有形・無形固定資産の取得による支出が387百万円あったこと等によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は1,383百万円（前年同四半期は1,289百万円の収入）となりました。これは長期借入による収入が900百万円、社債の発行による収入が594百万円、短期借入れによる収入が500百万円あったこと等により資金が増加したことに対し、長期借入金の返済による支出が556百万円あったこと等により資金が減少したことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当社グループでは当第2四半期連結累計期間における研究開発活動として、連結子会社である株式会社味香り戦略研究所と共に、味覚センサーを活用したデータ分析をすすめ、味の測定・解析・比較を中心とした研究活動により、測定の基準となるデータベースの作成などを実施しており、これらは商業印刷事業における販売促進支援活動及び取引先に対する提供情報として活用しております。

以上の活動により、商業印刷事業において、当第2四半期連結累計期間における研究開発費は0百万円となりました。なお、年賀状印刷事業及びふりっぱ一事業、その他の事業においては特記すべき事項はありません。